

第5回江別市学校給食用食器検討委員会

日時 平成24年7月27日
午後3時00分～4時06分
場所 給食センター会議室

(委員長)

お忙しい中、またお暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。これより第5回江別市学校給食用食器検討会を始めたいと思います。

前回、課題となっておりました2か月使用した箸の状況についても現物がありますので、それらを確認しながら、箸の選定の話合いを進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

議事に従いまして進めてまいります。

3の確認事項(1)第4回の委員会会議録について、修正加筆があるかどうか確認したいと思います。

修正加筆のある方いますか。

(各委員)

なし

(委員長)

なしということです。

確認事項(2)2か月使用した箸の状況について、事務局から説明願います。

(事務局)

2か月使用しましたがどれがどの箸かわからないと思いますので、資料を付けておきました。万能箸と書いてあるのは、竹の皮を残したもので、21cmの見本品です。価格は税抜きで210円です。もう一つが竹箸と書いてあるもので、表皮を取り除いて2番目の皮を残して作成しているもので、これも21cmです。価格は281円(税抜き)です。もうひとつは長さが23cmのみの炭化加工処理したもので、蒸し焼きした材料を使用していたというのですが、実際に売っているものは23cmのみということです。江別市で使っている箸籠には入りませんので、うちでは使えません。箸カゴが1個1万円以上しますので、それを3百何十個取り替えるわけにはいきませんし、小さいお子さんには23cmは長すぎると思います。これは見本としてありますので、使っていない箸ということで触っていただければと思います。価格は172円(税抜き)と安くなっています。

前回、資料として200円とか150円の価格の竹箸と100円のプラスチック箸の金額を比較したものを提出していました。今の資料の裏面に子どもの健康と環境を守る会代表から届いていた資料を付けていますが、竹箸の廃棄率が13%というのは乱暴なやりかたではないかということで、訂正依頼がきています。資料の真ん中辺に書いてありますが、現在380食を作っていて、1年間で廃棄したものは50膳で、1年目で駄目になるというよりは、何年も使った結果駄目になったものもあるということで、1年目から13%使えなくなるという計算はおかしいということで、訂正してほしいということです。実際は

プラスチックの120円とこちらの200円あるいは281円と比較しますと実際にはコスト比較にはならないものでしたが、私の方で前々回の委員会において、13%で計算するとどういふふうになるかということで、お話ししたのですが、あまり参考にならない資料でした。そのことをご了解いただいて、13%ずつダメになるという意味ではないので、認識を替えていただきたいと思います。

実際に見て触っていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

(委員長)

事務局からの説明のあったことで何か質問ありませんか。

(各委員)

なし

(委員長)

廃棄率について、修正ということで事務局より説明がありました。

2か月使用した竹箸が前にありますので、近くで、手にとって確認してください。

(各委員)

竹箸を確認する。

(事務局)

2か月使用したのですが、こちらが表面です。見て気になるのが、色がついてしまったような、油かなというような感じです。ばらばらにするとよくわからなくなるのですが、並べるとわかるという感じです。曲がりについては、背中合わせにすると目立つのですが、そんなやり方はおかしいと子どもの健康と環境を守る会の代表には言われたのですが、実際にどういふふうにご子達が持つかわかりませんが、この向きで持つとこれだけ開くということになります。これは差が大きいほうですね。中にはそれほど開かないものがあります。内側同志つけるとぴたっとつきますし、横同志はぴったりで、この向きでは曲がりはありません。

こちらは使っていない箸ですが、さわってみるとざらつきがあり、2か月使った方はこのざらつきがなくなったように感じます。

ささくれがあるかないかについてですが、手でぎゅっと触ると、細かいものが手につきますが、刺さりはしないです。

(委員長)

委員の方、実際に手にとって触った感想を色々お持ちと思いますが、その前に、4番目の説明事項がありますので、その説明を受けてから、5番目の協議事項に入りたいと思います。説明事項の充填剤について説明願ひします。

(事務局)

充填剤についてC社に確認したのですが、会議の開催案内にも記載しましたとおり、充填剤についてなぜ公表できないのかにつきましては、企業秘密であるためとの回答でした。

(委員長)

前回示した資料以上のものが出てこなかったということですので、そのことを踏まえて、この後の協議の中でPET箸そして、竹箸について総合的に考えていく、そして方向性を出していくほかないと思います。

5 番目協議事項に入ります。

実際に2か月間使ってきた現場の感想があれば、お願いします。

(F 委員)

献立にもよりますが、箸は週3回程度使用しました。ごはんのメニューであれば、油っこいものは使用していないのですが、毎日1時間半位浸し、水を切って、それから80～85℃くらいで、1時間15分乾燥させました。意外となめらかで箸カゴの収まりも良いと思います。

箸籠からは、根本の方が大きいので飛び出すこともなく、使い勝手はさほど難しいものはなかったと思います。

(委員長)

各委員から、実際に触ってみた感想などを含めて一言ずつお願いします。

(副委員長)

こちらから少し離れて見るとすごく汚れが目立っていたのですが、近くでみるとそうではないですね。皮がついているほうは、最初に持った時と、感触の変わりはありませんでした。自分は手が小さいので、皮つきのほうが使いやすいのですが、持った感じは洗っているわりには、滑らかになってあまり、最初のころと変わりはないと思います。

(C 委員)

単刀直入にいいのではないかなと思います。手触りもいいかなと思います。

(委員長)

万能箸と竹箸と2種類ありますが、違いについてはどうですか。

(C 委員)

炭化加工した箸は多少、触った感じ手につくのかなというイメージがあったのですが、刺さるほどのものではないですし、これって何回洗っても同じ感じになるのでしょうか。

(事務局)

炭化加工の箸は、長くて箸籠に入らないため使えませんでしたので、万能箸と竹箸の2種類を使ってみました。

(委員長)

特に問題はありませんか。

(C 委員)

特に感じませんでした。

(委員長)

D 委員いかがですか。

(D 委員)

反りが気になっていたのですが、見てわかるとおり背と背をあわせた時の反りであって、使うのには問題ないと思いました。子どもが間違っ、反った状態で使うにしても、お箸は上の方が開いていますから使うには問題ないと思いました。手触りも悪くなっていませんので、いい状態だと思います。

(委員長)

J 委員どうですか。

(J 委員)

先程話がありましたが、前回ほどのささくれとかが、触ってみて、気ならないと感じました。

(委員長)

前回の議論のなかで、手触りやささくれが心配で2か月使ってみたところ、結果逆になめらかになったようですね。

(J 委員)

前回、それがあったのでどうかと思って触ってみたのですが、確かに前回ほど感じません。

(委員長)

H委員お願いします。

(H委員)

ささくれ等は気にならなくなったのですが、食材によって油物だとかを何回か使って先の方の色が変わっているのですが、食材による着色が気になります。

竹なので、油などが染み込むことが気になります。

(委員長)

2種類あるのですが万能箸の方が、ちょっとシミが薄いような感想を持ちました。

G委員いかがでしょう。

(G委員)

最初、そこで見た時、反りが気になったのですが、使い方によっては反りも気にならないし、手触りもそんなに気にならないので、前にペット箸で、何が入っているのかわからないという問題もありましたけど、これを見ると充填剤とかが一切使っていないということであれば、これが安全で使いやすいと思いました。

(委員長)

B委員お願いします。

(B委員)

私は変色と反りが気になりました。

(委員長)

そうですね。これは紛れもない事実であって、当然PET箸もその中身がわからない部分があるという状況ですし、竹は反りとシミですね。それを考えて総合的にどうしたらいいかという協議になると思います。ただ、今の感想を聞いた中では、逆に2か月使用した後の方が、竹箸の欠点が少し改善されたというような感想もいくつかあがっておりました。

それでは、以上のことから箸の選定について話を進めていきたいと思えます。

今、竹箸の感想を言っていました。これからお話ししていただきたいのは、PET箸と竹箸を比べて、どのような意見をお持ちかということをお伺いしたいのと、ちょっと整理したいのですが、竹箸は3種類ありますけど、炭化加工の箸は、協議の対象から除外するという事によろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(委員長)

それでは、2つの竹箸とPET箸の比較について、ご意見をお聞きしながら進めて行きたいと思います。

ご意見ありませんか。一人ずつお聞きしたいと思います。

副委員長から

(副委員長)

金額の問題になってしまうのではないかと思います。安全なものとなると竹箸になるのですが、ここは協議していかなくてはいけないところなので、話し合いをもって決めていきたいと思っています。私としては竹箸の万能箸の方は、最初の使わなかった時と、今とは、あまり変わらない、いい手触りです。真ん中の竹箸は、ざらざら感が残っているので、人それぞれなのでしょう。これは意見としていいか、悪いかですね。

(委員長)

そうです。PET箸も含めて考えていただきたい。

(副委員長)

難しいですね。PET箸は今まで使っていたものですね。給食センター側にしてみたらPET箸が楽ということになると思うのですが、子どもの安全を考えると竹箸になるのかと思います。難しい選択なので、皆さんの意見を聞きたいです。

(委員長)

C委員どうでしょうか。

(C委員)

やはり安全を優先するのであれば、竹がいいのかと個人的に思いますし、多少高くなっても致し方ないかと思っています。私遅れてきて、あまり説明を聞いていないので申し訳ないのですが、ここに書いてある黒ずみは紙やすりで研磨するととれるというのは、こういうのがもろもろなくなるということなのでしょう。

(事務局)

このシミは黒ずみではないと思います。

(C委員)

竹について、このシミはとれないのでしょうか。

(事務局)

染み込んだらとれません。

ここに書いてあるとおり、早めに紙やすりなどで研磨すると黒ずみはとれるということですから、表面についたカビっぽいものということではないかと思っています。

(C委員)

わかりました。ただ安全について竹が間違いないというのであれば、そのほうがいいのではないかと思います。

(委員長)

D委員いかがですか。

(D委員)

どちらの竹箸でもかまわないのですが、国産の竹箸ということで、是非お願いしたいで

す。

(委員長)

J 委員いかがですか。

(J 委員)

安全性や使い勝手を考えると、なかなか難しい部分もあるのですが、竹箸のシミは気になるかなという部分ではあります。竹箸よりは万能箸の方がいいと思います。

(H 委員)

竹の素材ですから、表面が何も加工されていないので、あらゆる面で染み込む、洗剤で洗淨した場合、そういった洗剤分の染み込みとか、食べたものの染み込み、そういったものが気になります。以前、給食センターで使っていた竹箸というのは、表面にコーティングをしてありました。今検討している箸は、生の竹の素材ですから、素材自体は安全かもしれないですが、今後洗剤分の染み込みなどが気になるところです。

(委員長)

食材だけでなく、洗剤分の染み込みも気になるということですね。

(H 委員)

洗剤で洗い、水で流しますけど、乾燥させることによってどういうことになるかわからないのですが、気になります。

(委員長)

G 委員お願いします。

(G 委員)

先程もお話ししましたが、この資料を見ると、竹箸には不安なものが一切使われてなくて安全ということであれば、経済的なこと、現場のいろいろなこともあるかもしれませんが、子ども達の安全ということであれば、竹箸を使ったほうがいいと思いました。

(委員長)

F 委員いかがでしょう。

(F 委員)

2 か月使って、先の方に染みがついています。それで、これを1年間使うとどれくらいになるのかということは気になってますし、今現在使われている箸が4年と少し使用していますが、その中で折れたりとかは、1割もないくらいです。ただ小皿を強化磁器にすると、その分重くなります。今現在の箸でも、40膳で800gくらいありますので、重さから考えると、竹箸になると多少なりとも何百gかは軽くなるのかと思います。

(委員長)

竹にした方が軽くなるのですか。

(F 委員)

そうです。

(委員長)

B 委員どうですか。

(B 委員)

H 委員がおっしゃられた洗剤の染み込みとかは大事だなと思って聞いてました。私はP

E T箸でいいと思います。P E T箸を使いたくない人は箸を持参する。P E T箸とはこういうものだとして保護者に知らせて、それを使いたくない人は持参してくださいという方向でいいような気がします。

(委員長)

やはり意見としてはひとつにはまとまっておりませんでした。竹の心配は、先程から出ている染み込みということですね。食材だと有毒ということはないと思われませんが、洗剤の染み込みとなると、考えるべきだと思います。

(D委員)

染み込んで困るような洗剤が使われているという事でしょうか。

(H委員)

そういうわけではないですが、洗浄するためのものですから、そういうこともやはり気になります。

(D委員)

例えば石鹼を使ったら気にならないと私は思うのですが、そういう可能性は考えられるのですね。

(事務局)

石鹼なのですが、前にも石鹼を使ってほしいという話がありました。その時、他市で石鹼を使っていました。石鹼はどうしても石鹼カスが出てきて配管が詰まってしまいます。学期ごとに、配管をばらして洗浄しなければならないという状況がありました。

(D委員)

食器洗い用の石鹼とか、色々出ているのでご検討ください。

(委員長)

少なくとも、洗剤は身体に毒ではないですね。また、そういうものを使っていたら大変なことなので。今、洗剤の話がありましたが、どこまで染み込むのかはもちろん科学的にわかりませんが、ただ一番問題にしているのは、シミの部分はどうとらえるかですね。私は、たとえばこちらの万能箸であれば全然気にならないシミなのですが、そのあたりをどう考えるかですね。

もう少し意見をいただけませんか。

(事務局)

以前から、食材が付くとか、洗剤が付くということで、危険なものではないという話ではあるのですが、やはりプラスチックの食器を使う場合にそういうものが染み込むということで、問題があるというご意見が出ているのも事実です。子どもの健康と環境を守る会からも、そういうことがありました。たとえば、以前使っていたポリプロピレンの食器ですが、なぜ悪いかという理由に、着色すると言う話がありまして、着色したところに洗剤とか色々なものがつくのではないかということでした。洗剤以外はつかないと思うのですが、そのようなことが問題となった事実があります。

(D委員)

着色するからだめと言われたのは、給食センターのほうですか。

(事務局)

着色した部分にまた何かついてくるという話です。

色が付くということは、まだ何かつく可能性があるという話です。

(D委員)

自然の物って、箸も普通に家で使っているものはだんだん飴色になってきますよね。色々なものが付くこともあるのでしょうか、それを清潔にしていれば大丈夫だと思うのですが、何か問題があるのでしょうか。

(事務局)

前の食器の話もそうなのですが、高温で乾燥したりするので、科学的な変化とか、そういった部分が懸念されたのではないかと思います。プラスチックでも木でも家庭で使う分には、どちらも危険性はないというのはD委員が所属する会でもそういう認識だと思います。給食センターのような洗浄、乾燥消毒その方法があるからいろいろまずい面が出ると思います。

(D委員)

プラスチックの素材自体がですね。

(事務局)

いえ、ポリプロピレン自体の素材は、あの時問題になってはいなかったと思います。ポリプロピレンが良くないという理由は、着色して、そこにまた何かがついてくるという点です。

(D委員)

あの時は替えた食器の方の話でしたか。

(事務局)

前の時はいろいろ比較しましてポリプロピレンはどうか、PENはどうか、強化磁器はどうかで比較しまして、ポリプロピレンは、そういうことで除外したと認識しています。そういう点で、その食材あるいは洗剤が、付着しても問題ない、染み込んでも問題ないかどうかは、はっきりはしていませんよね。全てがそうですけど。いろいろな食器にしても、こういう懸念があるからダメなのではないか。国の基準はクリアしているけれども、いろいろな懸念があるからプラスチック製品全般はあまりよろしくないというのが2つの会の方のご意見かと認識しています。

そういう意味で箸に洗剤がついても何でもないというのはどうなのでしょう。

(D委員)

安全な洗剤を使っただけであればよりいいと思うのですが。

(委員長)

その付着する部分は私にもわかりませんが、ただ、それを気にするのであれば、このシミを課題と見て、やはりPET箸がいいという結論になりますし、これが特に問題がないとなれば、これはこれで大きな問題ととらえないで選定の基準にはなるかと思えます。

他の方の意見はございませんか。

(副委員長)

確認ですが、2か月使っていたということで、3回ほどと先程おっしゃっていたとおもいますが。

(F 委員)

3回というのは、週に3回使ったということです。

(副委員長)

連続して使ったというわけではないのですか。

(H 委員)

献立によって、箸を使う日とスプーンやフォークを使う日があります。3種類の食器を組み合わせ使っていますので、毎日連続して箸を使うというわけではありません。

(事務局)

例えばカレーライスですと箸は使わずにスプーンを使います。

(副委員長)

給食の献立と同じように、使用したということですね。

(事務局)

うちでは、職員も給食費を払って、給食を食べていますので、そこで食べる時に実際に使って洗浄乾燥したということです。それで、給食のメニューに合わせた分だけしか使っていないということです。

(副委員長)

わかりました。

(委員長)

どのように話をまとめていくか、私もちょっと困っておりますけれども、PET箸は扱いやすく、丈夫だというよさがあります。ただ安全性が不透明だというのが一番のネックになっています。私も個人的な意見を言わせてもらおうと、今回この竹箸を見て、思った以上に使えるというイメージは持っております。特に万能箸については。だから安全を第一に考えるのであれば、竹で個人的にはいいと思っておりますが、もし、意見としてPET箸となったとしても先程B委員が言ったように、いずれマイ箸の方向も、今回は結論を出せなかったのですが、次回の更新の時は、できればマイ箸の方向に持っていけないかという個人的な思いはあります。その一つの方法として、もしPET箸になったにせよ、不安があるご家庭については、マイ箸という次の方向を見通した取組もあると思えます。

(事務局)

プラスチックの場合に、概ね千回使用して5年かかるということで、プラスチックの場合に更新という考え方が出てくるのですが、今使っているカップと中皿は強化磁器です。これは割れたものを補充していくということで、更新と言う考えはありません。そうすると竹箸も、黒ズミとか割れて除外していくと、足りないものを補充していくということになりますので、これもおそらく更新という考えは出てこないと思えます。

(委員長)

もちろんそのとおりでと思うのですが、もし選定されても、それが永遠に続くことはあり得ないと思えます。例えば3年なり、4年経過した時点で、こういう委員会を持って、それまでの状況を考え、またその後続けていくのか、やはりここで替えていかなければいけないのか、そういう検討の時期が必ず来ないといけないと思えます。その時に先程言っているようなことが次の課題としてでてくると思えます。

(事務局)

それですと、できればこの委員会としての結論の中で、選定とは別なのですが、5年たったらもう一度検討してみる、変えるという前提ではなく、どうだったかという検証も含めて、次回何年か後に、こういう委員会を開催するというのをひとつ結論の中に入れておいていただくと、次回開催しやすいという気がしますのでよろしくお願いします。

(委員長)

付帯意見として、皆さんに同意していただければ、そういったことも答申のなかに入れていくということですね。

この委員会の設立の趣旨は、安全というところがかなりクローズアップされ、そして小皿の選定もそのような方向で、意見をまとめてきています。その安全ということを考えてみると、やはり意見のなかにもありましたとおり、竹箸のほうがより安全ではないかという思いは私なりには伝わってはきています。だから、もし竹箸はだめだという強い意見があればここで出していただいて、そのあたりを審議していくということで、竹箸は絶対だめだという、強くだめだという意見はありませんか。

(B委員)

安全なものだから絶対だめという結論というか答えはないと思うのですが、やはり変色と反りが、これを長く使っていったらもっともっと進んでいくと思います。そんな中でこれに踏み切るのはちょっと、この先困らないかなという気持ちがあります。

(委員長)

その部分が判断材料としては大きいと思います。今回は2か月の使用ですから、今言ったように1年、2年、3年使用するとどうなるかは誰にもわからないのですが、そのシミ自体を大きく見るか、あるいは私が言ったようにそんなに気にしないでみるかによって、またとらえ方も変わってくると思います。

(B委員)

見た目は大事だと思います。安全性を重視している会議だということは重々承知していますが。

(委員長)

もう少し意見をいただけないでしょうか。

(D委員)

金額的なことがなければ例えば1年後にもう一回、実際に使ってみたものを検討するというふうにしていただけると一番いいと思いましたが、金額が高いので、1年間でやめてしまっは、予算的に難しいでしょうか。

(事務局)

そういうことであれば、例えば、一つの学校でやるという方法も可能だと思います。

(D委員)

一部の学校だけ使うということですか。

(事務局)

全部の学校で使って、1年でやめるのはかなり厳しいものがあると思います。例えば、

この委員会の中の結論として、安全性から言って是非これをこう進めたいということであれば、そういうことも一つの方法だと思います。ただ時間はかかってしまいます。

(D委員)

今の箸は、その間はおつのですか。

(事務局)

一般的にプラスチックは千回使用としているので、年に約200回使用するとして5年ということですから、1000回使って急にそこから毒が出るとか、使えなくなるという話ではないと考えます。

どうしてもプラスチックも劣化していく、どんな物でも例えば太陽にたくさんあたって、ぱりぱり割れてしまうプラスチックなどはあると思います。そういう意味で劣化していくというのは絶対あると思います。未来永劫使えるものではないと思います。例えば家庭で使っていれば、それは使用回数が少ないですし、日にも当たらない。そういう意味では一般的に言われている千回の基準を考えるしかないと思っています。それで、千回以上使用することになるのは、この2学期からです。今年の1学期で丸5年経ちました。しかし、2学期から急に使えないかということというのは全然ないと思います。見た感じでは全然何でもない。これをあと1年、2年使ってどうなるかというのはわかりません。今回の検討委員会ではない、平成19年、20年で検討した時に千回、5年という話が出ていますし、これはここだけの話ではなく一般的に、そう言われている話ということです。

(委員長)

竹箸をもっと長い時間使ったときの変化ですね、特にシミの部分ですけれど。それを実際長期間は使用していないわけで、想像で討議しても限りがあります。今事務局からひとつの案で、ある学校で使用してみるというのもひとつですし、あるいは給食センターで1年、2年と使うという方法もあるのではないかと意見がありました。

PET箸にするという意見がまとまった時に、竹箸も候補にある訳ですから、実際に、1年、2年、3年ともう少し長い時間使ってみてはどうかという考えです。それから、もう一つは先程のB委員の言うように、もしPET箸となった場合に、どうしても不安であるならマイ箸を積極的に保護者にPRしてマイ箸を使ってもらおうという試行的なやりかたもあるのかと思います。両方の意見をまとめるのは難しく、平行線で行ってしまうような気がします。

(C委員)

箸は洗いますね。そうしたら、たとえばある学校に200膳用意するのは、どういうふうに振り分けるのですか。適当に集めるのですか。

(F委員)

クラスに配る箸の数は決まっています。30人以下であれば30膳とし、40人までであれば45膳を箸カゴに入れてあります。

(C委員)

洗ってはじかれて適当にあつめるとかという形ですか。

(F委員)

いいえ、本数を数えるのではなく、重さを量って、籠に入れたまま一緒に乾燥させてい

ます。

(C委員)

例えば2年使ったものと、初めて下ろした、1, 2回しか使っていないものを一緒に籠に納めてしまえば、色はすごく気になると思います。

私がよく仕事でやるのは、いろいろなクリーニングしたものを納めたりしますので、一回広げて、やっぱり1年使ったものと5年使ったものとは当然色も、度合も違ってきますので、少しでも同じものを集めて納品したりします。そういう作業は一切なしですか。

(F委員)

一切ありません。

(C委員)

それでは、まともに差がでてしまうわけですね。

(F委員)

そうですね。今の箸を使用する前は、竹箸だったのですが、コーティングされている、ニス塗られているような感じだったので、それほど色的に差はありませんでした。ただ反りはひどかったです。

(C委員)

わかりました。

(事務局)

反った箸は、はじいていきます。

(F委員)

ただ委員長が言ったように、2か月でこのくらい、先端の半分くらいがシミになっていますので、半年、1年位になるとどのくらいになるのかは気になります。

(C委員)

ある程度染まったら、止まらないですかね。

(F委員)

それが、どうなのかはわかりません。今現在はこういう状態ですけど。

(委員長)

それも含めて実際やってみないとですね。

(C委員)

そうですね。

(委員長)

もう一つ、これは個人的意見として聞いてほしいのですが、PET箸についての問題はさきほどから出ているのですが、ただPET箸自体を使っている市町村は、江別だけではなく他の市町村、道内でもたくさんあると思います。ですから、もしそれが問題であるとすると、ほんとにここだけの問題ではなくて、もっともっと大きな問題になるのかと思います。他の市町村からそういう問題が出てきているのかどうかということも、どうなのかなと思い、特に問題がなければPET箸も不安要素があるけれど、使用可能なひとつの箸なのかという個人的な思いはあります。どうしてもという思いもわかるのです。それであれば先程のマイ箸という一つの方向性もあっていいのかなと言う感じがしています。

(F 委員)

ただ箸に限らず磁器食器は重いということで、結構新しいセンターでもPET製の食器を使用しています。割れない、軽いということで使用しているところもあります。

(委員長)

意見を出してくれというと、話がそのまま平行線で行ってしまうような気がするのですが。

(事務局)

結論の出し方についてよろしいですか。

(委員長)

どうぞ。

(事務局)

前の時は全員一致ということで、またその時はお皿だけでしたが、強化磁器にすることで、全員一致で、教育委員会に意見の報告をいたしました。もし、少数意見があれば付帯意見として付けることも可能だと思います。

今回委員が12人いて、I委員は産休でお休みさせていただくということで、I委員からは、皆さんの多数意見に従うと言う事で一筆いただいておりますので、多数意見に賛成ということでよろしいと思います。その他の方の意見は全員一致なら全員一致、少数意見があればそれを少数意見として載せるということでこの委員会で決まれば、それでもいいですし、付帯意見はいらぬということであれば、全員一致ではないけれども今回の委員会の意見ということで教育委員会に出すということは、それはそれでよろしいと思います。

(委員長)

一番望ましいのは全会一致というのが一番いいと思います。今話をしているのは、意見が少数か多数かではなく、かなり真ん中あたりで別れてしまっている、そういうイメージがあったもので、それでどうしたらよいかということで、迷っていました。

最初にどうですかと聞いたときから変わった方はいませんか。

(B 委員)

PET箸がいいと言っているのは私だけですか。

(委員長)

そのようなことはありません。

(委員長)

給食センターの委員もPET箸だと私はとらえています。D委員は間違いなく竹箸ではっきりしていますね。あとは正直いって、私自身もそうなのですがどちらでもよいというような、そこでふらふらしているのかなと感じています。

(副委員長)

私は、どちらかという検討委員会という名前のもとにやっているのであれば、先に結論からいうとPET箸になります。というのは予算の関係で、もちろん安全性と言う場合に、もしも問われたとしたらPET箸が企業秘密で安全性がわからない、それを使っているのかと保護者の方に聞かれたときに、正しい回答ができるのかなということからいくと、そこを悩んでいるだけで、これを2か月使ってこれを全く小学校、中学校の子に全部とい

うのはすごい懸けといたらおかしいのですが、ダメな場合に損失が大きいなということから、どちらかをとるかという的比重的にはPET箸の方が見た目の変化がわからないので。どちらかと言うとPET箸側です。

(委員長)

C委員いかがですか。先ほどと変わっていますか。

(C委員)

はい。そうです。

(委員長)

竹箸のシミがなければ全く問題ないということですね。ただそれがかなり気になるし、まだ2か月しか使用していないというところが弱いところですよ。これが1年使用してこれくらいということであれば、これなら何とかかなるかなということ、強く言えるのですが。

(副委員長)

使っている期間の割には、思っていたのと違っていたので、ものがとてもいいのは、よくわかるのですが。

(委員長)

J委員いかがですか。

(J委員)

確かにそう思います。今2か月間だけでいったい1年ないしそれ以上使うとどのような変化になるのか、またこのまま変化しないかもしれないですし、そこが問題です。それで今決めてしまっているのかという気持ちはあります。

(委員長)

もし1年使ってから、このシミが濃くなった場合に、子ども達が食べる時、安全かもしれないけれど気持ちはどうかと考えるとやはり、保護者も学校現場も悩むところですね。

(J委員)

汚れとか言われたりしますので、汚れではないのですが、これ汚れているじゃないですかと言われるのではないかとということもあります。

(委員長)

全く違う発想で、この箸の選定をしているのですが、まださらに、使用してみて、1年使って1年後に結論を出すことは不可能ですか。そうではなく、ある程度は結論を出さなければなりません。

(事務局)

結論を出すという点では、どちらかという、私どもではなく、プラスチックを長い間使うのはよろしくないという考えからきていると思いますので、委員の皆さんが問題ないということであれば、私は構わないと思います。

(委員長)

もうひとつは、PET箸は不安があるけれど、実際にはPETのほうがという意見も多くなってきたかと私は感じています。ただ、竹箸を今後も使用してみる、竹箸を使用するという意見を切り捨てるのではなく、平行してやってみるのもひとつの手かだと思います。

ほかに意見はありませんか。

(D委員)

もし、1年間試しに使ってみるということであれば、最低限、小学校1校、中学校1校とか、もう少し子ども達がちゃんと使える状態で使ってみていただいて、どうしてもここは無理だというのが出てくれば、また違う検討もあるかと思うのですが、職員の方だけ使って、大人が使った状態で、というのは、それこそ、その状態で良くても実際に全校替えた時点で、また違う問題点が出てくるということも考えられますし、もう少し大きな規模で使っていただけたらと思います。

(事務局)

私もそう思います。小学校ではかじる子もいると思います。だれでも歯型がついていたらいやですよ。それははじいていかないといけません。そういうこともあると思います。これ絶対ぱりっと割れますからね。スプーンやフォークでも曲げる子がいますから。悪気はないと思うのですが、やる子はいます。

(D委員)

例えば、一つの学校だけ変えるというのは、実際の作業として大丈夫なのでしょう。

(F委員)

可能です。

(事務局)

例えば三中さんをお願いするとか、大麻小さんをお願いするというような形になろうかと思えます。それもひとつの決定ですから、それは承認を得てということになろうかと思えます。少なくともお金をかけて、1年間試すということなので、ここだけの結論ではなく、教育委員会にその結論をもって行って決めていただくということになると思えます。教育委員会でいいとなればいいと思えます。

(委員長)

ということは、先程言ったように、結論はここで出さない形にしておいて、試行しておいて、その後に結論をだすというイメージでよろしいですか。

(事務局)

お皿の方だけは決まりました。箸についてはこういう問題が出てきたので、様子を見たいというのも一つの結論だと思います。

(委員長)

いかがですか。また新たな話題になってきております。

(副委員長)

予算は足りるのですか。

(事務局)

予算は、この前お話しいたしましたけど、こちらで結論が出て、教育委員会でもいいとなると、財政との話になります。

(委員長)

先程言ったように、千回という使用回数があるので、今年度できれば結論を出して替えて行こうという考え方ですが、それが1年遅れても、だめというのであれば、先程言っ

たように試行して、ある程度結果が出た段階で結論を出すとしたほうがどちらも安心できるのかなという気がしてますが、B委員いかがですか。

(B委員)

けっこうです。

(委員長)

他の委員の方はいかがですか。

(他の委員)

異議なし。

(委員長)

初めてまとまりました。

(事務局)

今日欠席の方々がいらっしゃるのですけど。

(委員長)

そうですね。

(事務局)

前回、おおむね話が決まっていて、最終的に異議がなければ次回ということで決定したと思います。以前の検討委員会では、欠席された方には、文書で了解いただいた経緯がございます。

(委員長)

話をまとめますけど、今回は小皿については強化磁器ということで、前の委員会で決まっていますので、箸については、まず試行ということで、期間的にはどうでしょう、今年度いっぱいでしょうか。それもとまずどこの学校かを決めないといけませんか。教育委員会の承認をまず得ないといけないでしょうか。

(事務局)

そうですね。

(委員長)

そうすると、もし竹箸使用の試行をすることも間が空きますね。

(事務局)

まず買うのに時間がかかります。これは確か受注生産で、竹箸を作るのに時間がかかると思います。

(C委員)

1万5千膳を作成するには、2～3か月待ちと書いてあります。

(事務局)

資料に書いてあるのは1万5千ですから、千膳くらいでしたらそれほどかからないかもしれません。(資料の別箇所千膳以内の場合、8～10週程度とあるので、同じような期間を要する。)

(委員長)

話の流れとしましては、試行的に、ある期間、ある学校で使用するという事です。それを受けて、再度この委員会をもって最終的な結論を出すという話になりました。そうな

ると、この後の手続きとか、購入のこととかいろいろありますから、今いつからいつまでと言えないのですが、イメージ的には1年くらいの使用期間を経て結論を出すというイメージを持ちましたがいかがですか。

(事務局)

どうやって決めるか難しいかもしれません。本来はこれと決めて教育委員会にかけるところになりますけれど、今回の場合はちょっと違いますので、こういうやり方で進めたいということと、教育委員会にも、こういう形を出していいのか、そこまで出すのか出さないのかという部分について、上司とも相談しなければならないと思います。

委員会としては、そのように決めてもいいと思います。

(委員長)

今、私が話をしたような考えで、この委員会としての結論とするということを確認してもよろしいですか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

異論なしということで、欠席の方もこのあとお知らせして、確認してもらいますが、この会としての意見ということでまとめたのですが。

箸の選定について一つにまとまりませんでしたけど、事務局の方でまとめて、案を作成していただいてよろしいですか。

(事務局)

今日をもって結論でよろしいでしょうか。

(委員長)

そこも含めてですね。あくまでも、手続きを確認したのであって、今回、委員会として出せるのは小皿の選定結果は出せるが、箸の部分は、結論と言う形ではなくなりますね。

(事務局)

どのような形で出すかについて、前回の検討委員会においても文書にしまして、それを委員の皆さんに確認していただいて、この形でいいということで教育委員会に提出しています。前回、中皿を強化磁器にしますという、その1行で終わっているというわけではないので、ある程度内容的に、こういうふうに検討して、こういう結論が出たので、これを選定するというで提出しています。ですからその中身を委員の皆さんに確認していただく必要があります。

(委員長)

そのための委員会が必要ということですね。例えば1か月後にまた開催するとか、そこで今言った部分での意見をまとめたものを全員で確認するということですね。

(事務局)

事前に案を作って、皆さんにお配りして、それでいいと言う事でしたら、例えば欠席されても、案どおりでいいということで一筆いただければそれでよろしいと思います。

(委員長)

先程言ったように、教育委員会事務局との打ち合わせも必要になってきますね。そうい

う意味で、1か月くらい間をおいて、その中で意見をまとめて行くということで、よろしいですか。

(各委員)

異議なし

(事務局)

内容的には、前の経過がありますから、小皿については強化磁器、箸については、PET箸と竹箸の候補があがって、どちらがいいという意見もあったのだが、竹箸も捨てがたいというか、できれば1年なりの一定期間様子を見て結論を出した方がいいのではないかとということで、まとまったという内容でよろしいですか。

(委員長)

私はその内容でとらえております。皆さんよろしいですか。

(各委員)

異議なし

(委員長)

そういうことでこの委員会をまとめたいと思います。次回ですが、1か月後ですから8月末あたりか9月上旬、そのあたりでまた、事務局の方から各委員の都合を聞いて日程決定ということでよろしいですか。

(事務局)

よろしいですか。D委員から、小中1校ずつと言う案が出ていましたが、これは皆さんいかがでしょう。

(委員長)

小中1校ずつというのはいかがですか。

(各委員)

異議なし

(委員長)

小学生と中学生、使い心地は違うと思いますので

(事務局)

あと、長さですよね。今あるサンプルは1種類ですね。

(F委員)

22cmの1種類です。

(委員長)

最初に私は言ったのですが、現在使っている箸は、中学生には絶対短いと思います。

(F委員)

今使っているのは19cmの箸です。若干中学生には短いという話は聞いていました。

(事務局)

その問題もあります。

(委員長)

サンプルの箸は使いやすいです。

(事務局)

ということは小学校には長すぎるということですね。

(委員長)

それも使ってみないとわからないと思います。

(事務局)

そうですね。

長さはどうしましょうかね。

(F委員)

21cmではどうでしょう。

(指田委員)

小学校1年生には厳しいのではないのでしょうか。

(事務局)

買うとしたら、よりいいということで、値段も210円と安い万能箸ということでよろしいですね。長さは1cmきざみであります。

(F委員)

なかをとって20cmというのはどうでしょうか。以前竹箸を使用していた時で、このセンターの立ち上げ当初なのですが、中学生が20cm、小学生が19cmと分けていました。今回は試しに1年間ということなのでしょうけど、もしそれが、全校になった場合、補充が大変になるので、できれば統一していただきたいと思います。ですから20cmではどうでしょうか。

(B委員)

小学校1年生と中学校3年生では、イメージしていただければわかると思うのですが。

(事務局)

本当はせめて2種類あるほうがいいのですが。

(B委員)

2種類あってほしいですね。

(F委員)

洗浄後に計量して不足している時に補充する場合、混ざってしまったということがあります。

(事務局)

混ざるといのは、どうしてでしょうか。

(B委員)

結局、ばらして補充しますよね。

(事務局)

小中別に洗浄しているわけではないのですね。

(F委員)

そうです。それで統一して、中をとって20cmという形が作業的にもベストなのかと思います。

(委員長)

今の箸は何cmですか。

(F 委員)

19 cmです。

(委員長)

実は、私もいろいろな市町村にいたのですが、江別が一番短いのです。それで、最初持った瞬間、すごく使いにくいなというイメージでした。1 cm伸ばして、20 cmで試してみますか。

(事務局)

このサンプルの客膳箸は23 cmです。

(委員長)

大人ではいいかもしれないが、小1では無理ですね。

(事務局)

資料に書いてありましたけど、箸の場合、手のひらの長さプラス3 cmとかいてありました。私の場合手のひらが18 cmしかありませんので、21 cmがいいです。

(委員長)

大きな手の人なら、この23 cmでいいと思います。

(事務局)

それでは20 cmということよろしいですか。

(委員長)

次回に開催についてはよろしいですね。

(事務局)

では1か月後で、9月初めころですね。

(委員長)

それでは第5回の検討委員会を終わりにしたいと思います。お疲れ様でした。